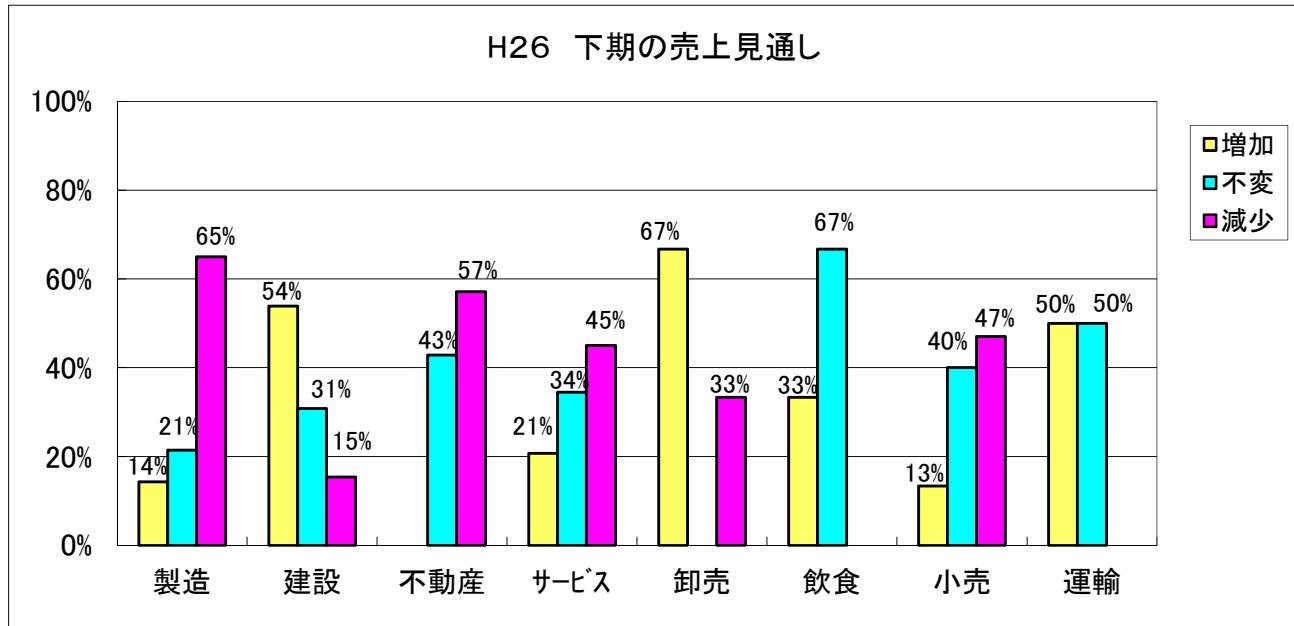


**調査2** 平成26年1月～6月を水準とした平成26年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

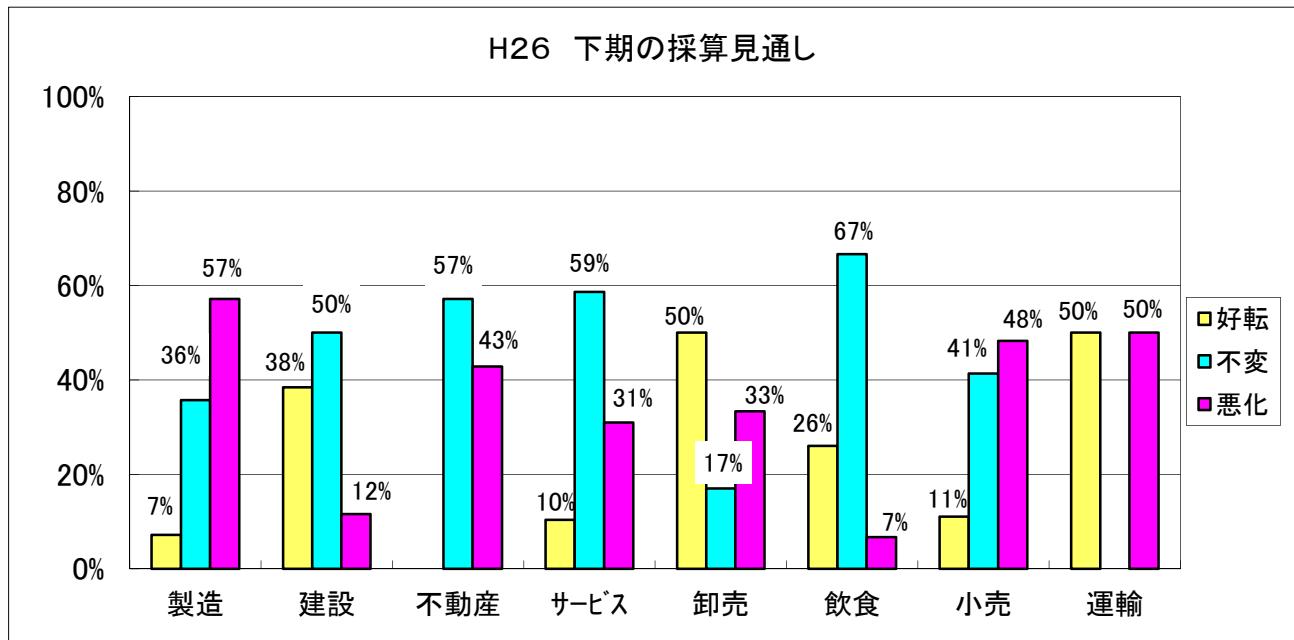
### ①売上見通し

全体でみると「増加」31%(前回32%)、「不变」36%(前回50%)、「減少」33%(前回18%)となつた。業種別でみると「増加」する見通しが多かった業種は、卸売業(67%)建設業(54%)運輸業が(50%)で、その他の業種は、厳しい見通しであった。



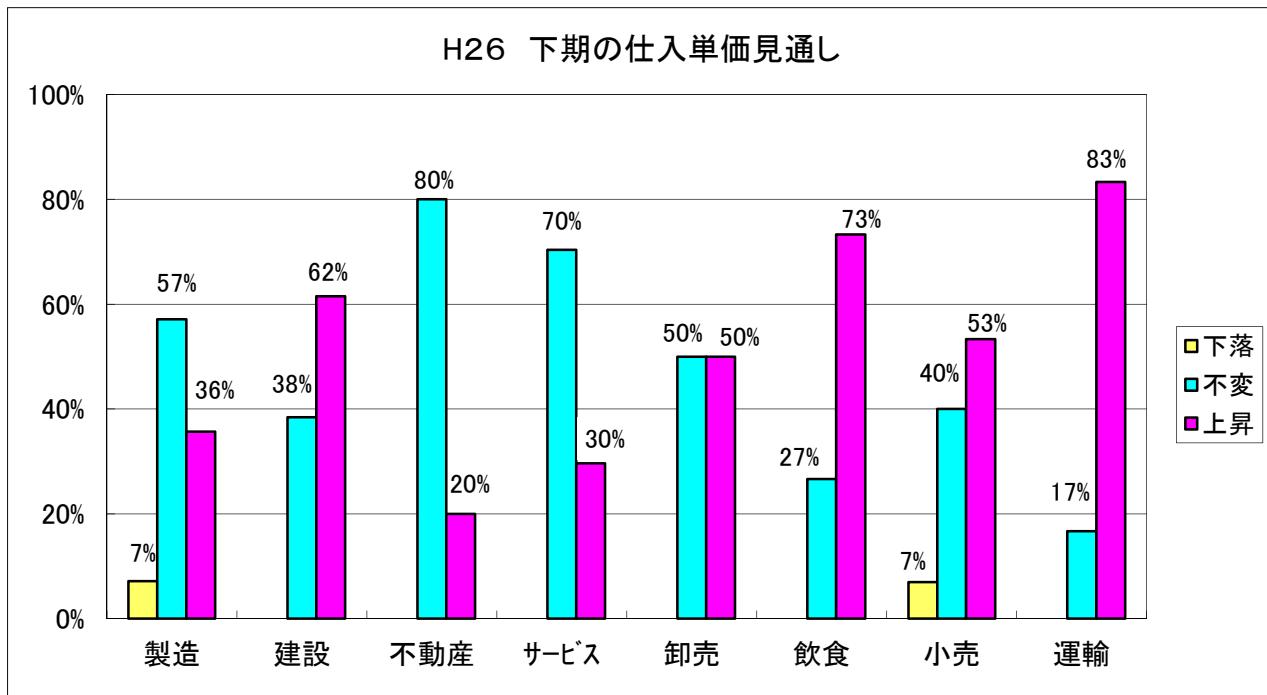
### ②採算見通し

全体的にみると、「好転」が24%(前回20%)、「不变」が41%(前回58%)、「悪化」が35%(前回22%)となつた。卸売業が採算見通しが「好転」との回答が多かった。一方、「悪化」の見通しが高いのが製造業、運輸業、小売業であった。



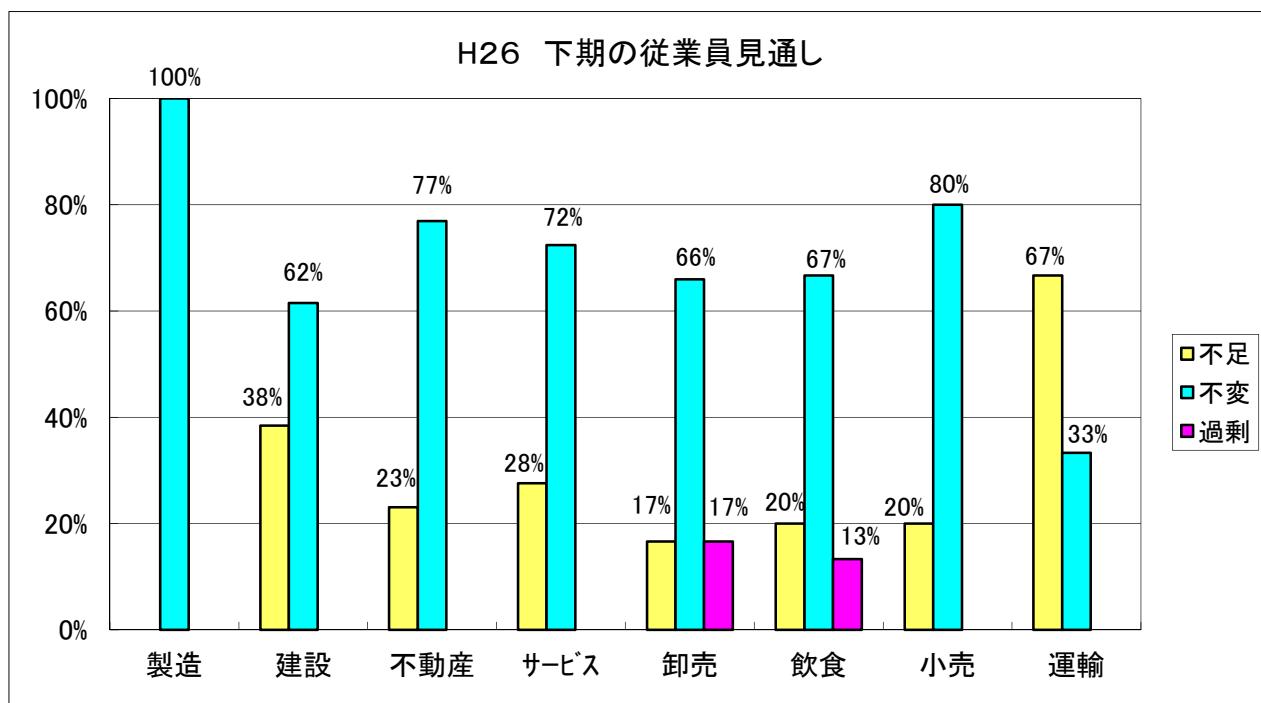
### ③仕入単価の見通し

仕入単価については、運輸業が83%「上昇」と回答している。続いて、飲食業(73%)、建設業(62%)と続いている。原油価格や資材の高騰がみられる。



### ④従業員の見通し

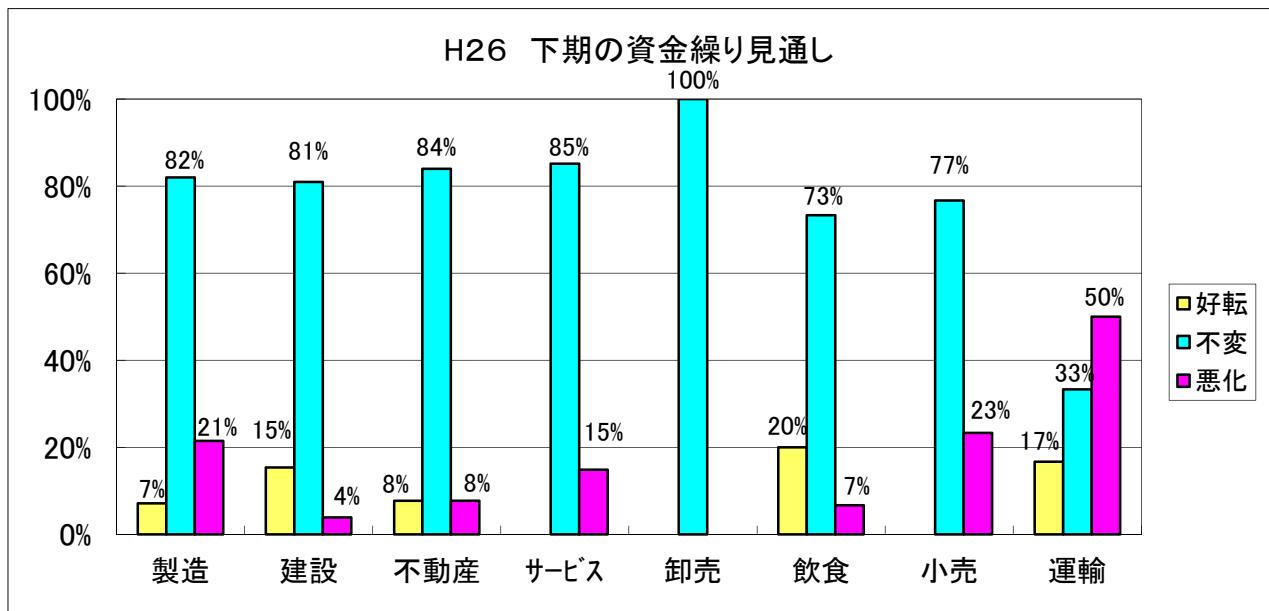
「不足」との回答が多かったのは、運輸業67% (前回33%)、建設業38% (前回42%)で深刻な人手不足になっている。



⑤業界の景気動向見通しについて  
P5~6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りの見通しで「悪化」が多かったのが運輸業で50%であった。その他の業種では全体的にあまり変わらない見通しである。



⑦金融機関の融資状況見通し

融資状況の見通しで「厳しい」が多かったのが運輸業の50%であった。それ以外は、「緩やか」及び「不变」との回答が多かった

